

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202978		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	ガーデンコート矢切(2階)		
所在地	千葉県松戸市下矢切99-10		
自己評価作成日	令和4年2月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	令和4年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様のニーズ、ご家族様のニーズを丁寧に伺い、スタッフの「ちから」のみではなく、地域の「ちから」を活用し、その人の「思い」を大切に出来る「暮らし」を実現出来るよう、「共生」(共に生きる)の心を大切に、ご本人様と足並みを揃えて歩いて行く。そんなホームを目指し、日々スタッフ全員でお手伝いをしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で多くの活動等が制限される中、利用者の安全の確保を第一にして、感染対策を徹底したうえで、ホーム内での生活の活性化に向けて職員が一丸となり取り組んでいます。季節行事などを通して季節を感じて頂いたり、誕生日のお祝いなども大切にして利用者の笑顔を引き出しています。季節行事のみならず、日常生活の中での利用者の関りも大切にして頂いています。洗濯物をたたんで頂いたり、リビングに飾る装飾品づくりに関わって頂くことも大切に頂いて、利用者自身の達成感を大切にしています。職員一人一人が利用者の気持ちに寄り添い、丁寧に対応することで、利用者との馴染みの関係を築いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念「サービス方針・サービス宣言」を元に従業員にサービスの提供が出来る様に日々の申し送りで伝えている。	全職員が名札の裏に会社のサービス方針・サービス宣言を入れ常時確認できるようにしています。サービス方針・宣言に基づき職員一人一人が利用者の気持ちを尊重し丁寧に支援していくことをホーム全体で大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以前では地域のお祭りや消防訓練に参加したり、近所のスーパー等に行き物に行ったりを実施していた。現在は感染予防の観点から行っていない。	今年度はコロナ禍の影響もあり、これまで参加をしていた地域のお祭りや防災訓練は中止のためこれまでのような交流はできていませんが、地域の方とはトラブルなく良好な関係を築き運営を進めています。	地域の関係者等と築き上げてきた関係性が希薄化しないように、今できる関わり方を模索し良好な関係が今後も継続できることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に、民生委員、ご家族に参加して頂いて、生活の状況や事例などを説明しご理解を頂いている。 ※現在は感染予防の観点から書面で実施し、活動内容の写真を資料添付しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、施設の運営状況や行事の報告、地域活動の参加内容などを報告させて頂いている。ご家族様や地域の参加者様からもご意見を頂き、サービスの向上に努めています。	今年度はコロナ禍の影響もあり、書面開催を中心にして実施しています。参加予定者である家族代表者、地域包括支援センター、民生委員、福祉用具事業者、他事業所、薬局等の関係者からは事前に意見を確認し議事録を作成しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている中で、事業所の活動報告を行なっている。	運営上相談事が生じた際には市の担当課へ連絡を入れて必要な指示を仰ぐことができています。新型コロナウイルス対策では空気清浄機を頂いています。地域包括支援センターとも日頃から連携を取り良好な関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、社内研修を開催し全職員に理解をして頂き、身体拘束のないケアを徹底している。必要により、その都度学びの場を設けている。 また、採用スタッフへ雇用前にオリエンテーション実施。	身体拘束をしないケアの実践に向けて2ヶ月毎ホーム内で身体拘束適正化委員会を開きホーム内で不適切ケアの発生が無いかについて確認して運営推進会議で委員会の報告を行っています。現状ホーム内において身体拘束につながる事例は発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、社内研修を開催し、全職員に理解をして頂き、身体拘束のないケアを徹底している。必要により、学びの場を設けている。 また、採用スタッフへ雇用前にオリエンテーション実施。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員参加の社内研修を行っている。必要性が見られた際は、その都度学びの場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書については説明をさせて頂き、不明な点が無いかを確認しながら理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートを実施。運営推進会議等でご意見、ご要望を頂き事業所の運営に反映させている。ご意見、ご要望があった際はその都度対応している。	家族からの意見や要望については運営推進会議前の意見確認時や面会時、電話連絡を通して意見等を確認しています。利用者からの意見や要望等は日常会話等から収集して日々の生活の中で反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	拠点会議を開催し、意見や提案を聞く機会を設けている。半年に1度定期面談を実施し、意見や提案をしてもらう環境づくりをしている。 ※会議頻度はコロナ禍のため不定期。 ※面談希望者いれば適宜聞くようにしている。	職員からの意見や要望についてはユニット会議や全体の拠点会議を通して確認していますが、コロナ禍で定期的に会議の開催が難しい場合には必要に応じて個人面談を取り入れて確認しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入して、職員個々の評価を行っている。また6か月に1回の定期面談を実施し、意見や提案をもらう環境づくりをしている。 6ヶ月に関わらず随時職員との交流を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の考え方や行動のサポートを行ったり、内外含め必要研修の参加の促しを実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会、小規模連絡会、他社運営推進会議、地域ケア会議へ出席をし、交流の機会を作っている。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学时、施設の雰囲気を感じて頂く。本人の気持ちがほぐれるように会話の中から糸口を探し、安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせ時の相談、面談時の際に家族の気持ちに寄り添い、要望や困っている事を親身に受け取り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がどう暮らしたいのか、家族が本人にどう暮らして欲しいのかを見極め、サービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお客様が、一緒に身の回りの事や日常生活の活動を行うようにしている。身近な存在、顔見知りの存在として関係づくりに勤めている。誕生日は、皆で祝っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態変化がある場合はもちろん、普段の様子も随時報告している。現在面会は難しいが、家族の言葉を職員と共有し本人に伝えている。電話やオンラインの活用。定期的に郵送している写真に活動時個々の様子を添え郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、家族との面会実施。(コロナ禍の為、制限あり)場所へ行く事は難しいが、PCや写真を活用し思い出話をしたり、馴染みの食べ物を提供し支援に務めている。	馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援では、コロナ禍以前は遠方から友人が訪ねに来るケースもありました。今年度はコロナ禍の影響で来所して頂くことは難しいですが、電話の取次ぎや手紙のやり取りなどを通して関係性が継続できるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	挨拶を通しお客様同士が、自然と関わりを持たれている。レク活動やお手伝いを通し、より関係性が出来る様に努めている。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了される前から今後の相談にのっている。、終了されてからも相談や経過のみならず、拠り所となるよう務めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望、意向等を伺っている。伺った内容を職員と共有し検討している。困難な場合には、これまでの生活歴や趣味を家族より聞き取り、意向を把握するよう努めている。	利用者の思いや意向については日常会話からの収集のほか、ケアプランの作成および更新時に実施するアセスメントにおいて確認しています。抽出した意見や要望、課題等はケアプランに反映し日々の支援に反映できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学时、初回面接時に本人や家族から情報収集を行い、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の様子を職員と検討し、必要な支援を提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との会話や家族、関係者との話し合いを行い、意見やアイデアを頂いている。話し合いの内容を汲み取り、現状に即した計画を作成している。	アセスメントで抽出した情報、利用者本人、家族、職員の意見を担当者会議で話し合い、総合的な意見を踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランの進捗については毎月モニタリングで確認し、6ヶ月毎短期目標を更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録と職員の情報を元に話し合いを行い、お客様の計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況により職員と情報を共有している。職員と意見交換を行いながら、サービスの多機能化や柔軟性を目指し取り組んでいる。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて、活動できる地域資源の把握に努めている。ボランティアの方の受け入れも行っていましたが、コロナ禍の為中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望をお聞きしている。連携医療機関を希望された場合は、往診と夜間急変時の対応も含め説明を行っている。本人、家族の要望を医師へ繋げるなどしている。	提携先のクリニックによる往診を通して主治医と連携を図っています。定期の往診以外にも密な連携が図られていることで、利用者の体調変化時にも速やかに対応できる体制があり、必要時に必要な医療を受けることができる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の連携は図っておらず、提携医療機関の医師と連携を図り、随時相談や指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連絡を取り合い、早期に退院出来る様に情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携機関と連携を図る中で主治医が終末期と判断した場合は、家族、主治医と相談をしながら今後の対応について相談し、方針を決めている。	重度化した場合や終末期の対応についてはホームでできること、できないことを利用契約の際に説明しています。重度化によりホームでの生活が難しくなった際には、今後の方針を家族も交えて検討し、看取りの際には主治医、併設事業所の看護師などとも連携して対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、有事の際にはスタッフが対応できるように研修を行っている。近隣住民との協力体制については希薄な状態であり、今後の課題である。	年2回避難訓練を計画して令和3年度は11月と3月に実施しています。水害状況についてもハザードマップで確認しています。備蓄品についてもホーム内に完備しており、消費期限なども適宜確認して必要時に確認できるようにしています。	今後に向けては、作成義務となった事業継続計画(BCP)についても段階的に準備を進め作成し、災害発生後における運営方針の明確化を期待します。

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、排泄時のプライバシー、お手伝い後のお礼等職員同士が意識し、当たり前と思う環境づくりを行っている。	利用者に対して不適切な対応にならないように、ホーム内でオンデマンド研修を通してプライバシー保護についての研修を行うほか、拠点会議を通して言動や行動等を振り返る機会を設け、不適切な対応につながらないように取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替え、飲み物を選んだり、今日やりたいレクを選べる様に働きかけ、希望を伝えやすい声かけと雰囲気作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、散歩等希望がある時には出かけたり、食事の時間など柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様に衣類を選んで頂き、着たい洋服が、自身で選べる様に支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様個々の力に応じお手伝いに参加して頂いている。また、メニューの変更を行い、食事を楽しみにして頂いている。	現状ホームでは調理の負担を省き、利用者との関わりを増やすために食事は湯煎で温めるタイプの食材を提供しています。食の楽しみに向けて夏にスイカ割りを行ったり誕生日にはケーキでの祝福を通して楽しみにつなげています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の把握を行い水分量が少ない方には、提供時間以外でも提供を行っている。夏場は、全お客様に多めに提供している。バランスは、食材提供会社の栄養士により提供されている。食事、水分量は、往診医にも相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。お客様の身体状況により、訪問歯科よりアドバイスを頂き、口腔ケアを行っている。口腔体操、嚥下体操の実践。必要に応じ訪問歯科の治療や口腔ケアの指導を行っている。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、必要な方にはトイレ誘導を行い、極カトイレでの排泄を支援している。	排泄については定時の声かけや誘導により、トイレで排泄できるように支援しています。定時に声をかけることができているため、排泄の失敗などを防ぐことができます。排泄状況は個人日誌内に記録しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や散歩等で、体を動かす機会を作っている。乳製品の提供など便秘にならないような働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っている。要望がある際は、入浴を行っている。	入浴については週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助について事故が起きないように努めています。入浴中はマンツーマンでの対応のため利用者とのコミュニケーションを深める時間にもなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様一人一人の生活習慣に配慮し、温度や明るさなどを調節している。また1時間に1回の巡視をおこない、安心して眠れるよう支援している。なかなか眠れない時は、温かい飲み物を提供したり、職員と談話するなどし支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時、往診医より薬の目的、変更と共に副作用の症状を聞く事が出来、変化の確認に努めている。薬剤師からも変更、用法、用量、副作用についての説明を受けている。職員にも情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品などは、家族の協力も得ながら提供している。コロナ禍で大きな行事は出来ないが、季節の行事を楽しみ、一人一人に参加して頂きながら、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染予防のため実施していない。	例年は近隣の公園まで散歩に出かけたり、外出や外食行事などを企画して、戸外へ出かけられるように支援しています。今年度はコロナ禍のため外出行事は自粛していますが、近隣の公園まで小グループで散歩にお連れしています。	

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを家族からお預かりしている。、本人の要望や必要に応じて家族同意のもと、買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を使用して頂いたり、自身の携帯電話を使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、常に清潔を保ち整理整頓を行っている。また、季節の飾り物を飾り、季節を感じやすくしている。装飾も色を選び作成し居心地よく過して頂いている。	季節に合わせた装飾品を掲示するなど季節感が感じられるように各ユニットで工夫しています。掃除も日々徹底するほか、手すりや床、リビングのテーブルなどもこまめに消毒しています。感染対策として換気も定期的実施しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったお客様同士を同席にし、話が弾む工夫や様子により席替えを行っている。また、ソファを設置し一人になれる様く空間づくりを行っている。ソファは、自由にし由して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや馴染み有る物を持ちこんで頂いている。お客様によっては、ご仏壇を持ち込まれている。	居室の掃除も定期的に行い清潔保持に努めるほか、居室内のレイアウトについても利用者、家族の意向を大切にしています。馴染み品の持ち込みを可能として居心地よく過ごせるように配慮しています。	家族アンケートの意見では居室内の様子を知りたいとの意見も出ています。面会を制限している期間においては定期的に居室内の様子を報告できるとよいと思います。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、フロア内は整理整頓を心掛け、お客様に合った導線づくりを行い「できること」「わかること」の見守りと声かけを行っている。		